宮城大学地域創生シンポジウム

多様な主体による地域創生デザインのすすめ

地球沸騰ともいわれる気候変動の影響下の時代の只中、緊張と衝突が続く国際社会情勢では、世界的なサプライチェーンもリスクと不安定下におかれ、国内では少子高齢化は更に進む見通しとの昨今、今後は地方に視座をおいた生活や活動が希求されるとの指摘もあります。そのような中、これからの地域創生の在り方について、多様な主体の参加により「地方創生に求められるもの」「人口急降下社会での地方創生の主体」「企業における地方創生の取り組み」等を論点として、これら課題への理解を深めたく以下の通りシンポジウムを開催いたします。

2025 年 7 月 25 日（金）10：00～14：00

◆会 場：宮城大学大和キャンパス（大和町学苑 1－1）交流棟 2 階プルス・ウルトラ- 及び 宮城大キャンパス林

（公開：参加無料・定員 40 名　昼食各自　**申込/問合せ：電子メールで事務局まで※下記参照**）

◆10：00－12：00　開会挨拶　宮　城　大　学　佐々木 啓一 学　長

話題提供　（公財）不動産流通推進センター　森　毅彦　常務理事

内閣官房参事官　川上　敏寛　参事官

（株）ＡＮＡ総合研究所　伊藤　直樹　主席研究員

丸紅(株)グローバル総括部アジア・大洋州課　小田原大悟　課長

宮城大学 事業構想学群　小沢　晴司　教授

質　疑　応　答

ナビゲーター　早乙女愛佳
官民協働地域創生研究会

コメント　東北地方整備局、東北経済産業局、東北地方環境事務所、宮城県

講評 閉会 公立大学法人 宮 城 大 学　佐野　好昭　理事長

◆12：20―12：50 昼食（隣接本部棟のカフェテリア・生協は混むのでお弁当ご持参推奨）

◆13：00－14：00 エクスカーション：宮城大キャンパス林探訪～生物多様性の魅力と森林再生～

※R6 自然共生サイト登録・宮城大学生が案内します　要運動靴　雨天決行

森毅彦　（公財）不動産流通推進センター常務理事　東京大学法学部卒　1989 年建設省（現国土交通省）入省　住宅局、土地局、総合政策局、水管理・国土保全局、大臣官房、内閣府、総務省、農林水産省、在英日本国大使館、都市再生機構、高速道路会社等を経て、2023 年国土交通省関東地方整備局副局長、2024 年 7 月から現職。内閣府防災担当時には、東日本大震災発災当日に自衛隊機で仙台入りし、お盆まで政府現地対策本部にて対応。

川上敏寛　内閣官房参事官　1995 年東京大学法学部卒業。同年通商産業省（現経済産業省）入省。経済産業政策局知的財産政策室長、金融庁監督局監督調査室長、特許庁制度審議室長、内閣府知的財産戦略推進事務局参事官を経て、2022 年より現職。

伊藤直樹　（株）ANA 総合研究所　主席研究員　酒田市出身。横浜国立大学工学部卒業後 1989 年 ANA 入社。総合職（技術）として航空機整備を経験後、整備企画職を歴任。部門戦略や整備ビジネスをスコープとした世界企業との業務提携、合弁検討なども手掛けた。近年では官公庁受託事業部長として政府専用機整備等をサポート。　2025 年 4 月現職の地域連携職務に就く。

小田原大悟　丸紅（株）グローバル総括部アジア・大洋州課長　東京都出身。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、2003 年丸紅に入社。ゴム部に配属され乗用車タイヤの輸出入ビジネスに携わった後、　2010 年に現在の部署に異動し、地域軸での新規案件開発・渉外活動・情報収集や、海外拠点管理・社内調整業務等を担う。インド（デリー）、シンガポール駐在を経て 2022 年 4 月より現職。入社後、一貫してアジアでのビジネスに携わっている。

小沢晴司　宮城大学教授　福島大学食農学類客員教授　環境省で国内外の自然保護区管理や 2012 年から 8 年福島で除染や中間貯蔵施設建設、福島の復興再生等に携わる。現在県内外で温暖化対策検討や被災地の観光再生等のほか、企業、地域コミュニティと協力して学生と宮城大学キャンパス林再生に取り組む。2014 年度日本造園学会田村剛賞受賞。博士(環境科学)

主　　催：　宮城大学、官民協働地域創生研究会

協　　力：　東北地方整備局、東北経済産業局、環境省東北地方環境事務所、宮城県

問合・申込：事務局　小沢

ozawas@myu.ac.jp　まで

写真の海藻の森は南三陸町ラムサール条約湿地志津川湾ハンドブック掲載より転載